

CASE Study

システム間連携でクラウドの “いいとこ取り”をする ハイブリッド利用を実現



神奈川県トヨタ自動車は、Windows Server 2003ベースの社内システムをクラウドに全面移行。その中核となるCRMは、SalesforceとAWSをハイブリッドに利用、SkyOnDemandでシステム間を連携し、効率のよい新システムへのスピード移行を実現した。

神奈川県トヨタ自動車株式会社

企画部情報システム室 室長 中島 智広 氏

課題 : Challenge

Windows Server 2003のリプレイスにあたり、神奈川県トヨタ自動車では『全サーバのクラウド化』に取り組みました。

クラウド移行を計画したきっかけは、東日本大震災後に大量のバックオーダーが発生し、それを管理するためのシステムをSalesforceを利用してわずか20日間で構築したことでした。その際に、意外と簡単に構築できることが分かり、社内システムのクラウド化の手応えを実感することができたためです。

システムの中核である顧客管理システム（CRM）の構築を進める中で、課題となったのは顧客とのコミュニケーションログデータの移行でした。約800万件のデータをそのままSalesforceに格納すると、契約組織のストレージ容量の90%近くを占めてしまう試算が出ました。そこで、データの集約を行い試算し直したところ、なんとかなりそうだという結論に達したのが2013年7月時点でした。

年明けからのトライアル利用に向けて2013年の年末に実際のデータ移行を行ったところ、試算時点よりデータ増加量が多かったこともあり、ストレージの空きがほとんど残らないことが発覚しました。ストレージを追加購入することも検討しましたがコスト面の調整が難しく、決まらないまま年が明けました。6月にむかえるサーバリソースアップの期限が迫っていました。

神奈川県トヨタ

神奈川県トヨタ自動車株式会社
所在地：神奈川県横浜市
URL : <http://www.kanagawatoyota.com/>

主な事業：神奈川県内におけるトヨタ新車、レクサス、VW車、中古車の販売/自動車の整備及びカー用品の販売/損害・生命保険の代理店業務/携帯電話販売、チューニングパーツ開発販売/自動車用介護用品販売/総合アウトドアショップ「myX（マイクス）」の経営、等



シンポー情報システム株式会社
グループ支援部 **金子 明広 氏**

解決策 : Solution

この話を受け、テラスカイはSalesforceとAWSのハイブリッド利用を提案しました。たまにしか見ない約300万件のレコードは、Amazon RDSにアーカイブしておく、必要な時に呼び出す仕組みを

システム間連携で構築する方法です。そうすれば、今後顧客ログデータが増加することを考えても、コスト面で大いにメリットがありました。

SalesforceとAWS間の連携には、クラウド間連携サービスSkyOnDemandを採用しました。採用の決め手は、優れた開発支援機能により短期間での構築を実現できることと、サーバーの全面クラウド化を目指す同社にとって、パッケージソフトではなくクラウドサービスであることでした。

構築したシステム(下図参照)は、Salesforce上の顧客データの画面でボタンをクリックすると、SkyOnDemandがAmazon RDS上の顧客ログデータを検索してブラウザに表示するという仕組みです。画面を操作するユーザーは、Salesforceの画面だけを操作しているように違和感なくAWS上のデータを参照できます。この仕組みを、テラスカイの技術支援を受け神奈川トヨタ自動車からシステム部門を分離独立した会社である

シンポー情報システムの金子氏を中心とするエンジニアが、たった20日間で構築しました。

結果 : Result

クラウドごとの長所を活かし、開発生産性の高いSkyOnDemandを利用したことによって、無理のないスケジュールでカットオーバーを迎えることができました。プロジェクトを進めるにあたり、必要最低限までスリム化したアプリは、カットオーバー後にユーザーの要望を受けて素早く追加開発を行い、時にはユーザーが追いつけないスピードでの実装を実現しました。「それぞれのPaaSのメリットが把握できたので、今後も適材適所でクラウドを選択して利用していきたい。」と中島氏は展望を語ります。

▼システム間連携の実装イメージ

